

氏名	MOHAMMAD ARMANUR RAHMAN
学位	博士
専門分野の名称	経済学
学位授与番号	博甲第 3951 号
学位授与の日付	平成 21 年 3 月 25 日
学位授与の要件	文化科学研究科社会文化学専攻 (学位規則(文部省令)第4条第1項該当)
学位論文題目	Bangladesh の貧困問題とマイクロクレジットの役割 ーボグラ県のボイラ村とカシャハル村の調査を通じてー
学位論文審査委員	主査・教授 田口 雅弘 教授 真実 一美 教授 藤 鑑 教授 松本 俊郎 准教授 津守 貴行

学位論文内容の要旨

本論文の出発点には、Bangladesh の貧困問題をいかに解決するかという問題意識がある。本論文では、この問題意識のもと、Bangladesh の貧しい村々で広く機能しているマイクロクレジットの役割に注目し、ボグラ県のボイラ村とカシャハル村を実地調査して、そのマイクロクレジットが貧困対策に果たす役割を実証的に分析している。また、そこから得られた結論を基礎に、貧困対策に関する新しい農村開発モデルを提示している。

Bangladesh では、村によって農村社会・経済構造、そして地理的な状況が違っている。しかしながら、これまでのマイクロクレジットの研究では、農村社会・経済、そして地理的な状況の違いに着目した分析がほとんどなく、マイクロクレジットと貧困緩和との相互関係、マイクロクレジットを通じた農村開発のあり方についても十分に研究されていない。同一のマイクロクレジットの制度やマイクロクレジットが組織されても、農村開発や貧困開発の成果には大きな違いが生じている。同一のマイクロクレジット制度が導入されても雇用構造(農業から商業・サービス業)が大きく変化する場合もあれば、そうではない場合もある。マイクロクレジットの活用にあたっては村、地域の経済構造を十分に対応した配慮が求められるわけであるが、本論文は、そうした対応がなされておらず、またそれを準備するためのケーススタディも十分ではないと指摘している。農村の雇用構造を貨幣経済中心に変化させることによって貧困緩和、あるいは農村開発は可能であるが、同時に、地域ごとにその地域の職業形態を活かすことによって貧困緩和、そして農村開発を進めることも重要であるというのが本論文の主張である。つまり、地域社会・経済構造と地理的な状況を勘案したマイクロクレジットの制度と農村開発モデルを考えることが重要であるということである。

本論文では、まずバングラディッシュの農村社会構造と農村開発の視点と問題点について述べ、次バングラディッシュの非制度金融と土地なし層を含む貧困層に対する無担保融資に取り組んできたグラミン銀行を取り上げ、その活動を紹介し、さらに農村の社会・経済構造の改善と貧困緩和におけるマイクロクレジットの役割を、データ分析とボグラ県のボイラ村とカシャハル村での聞き取り調査にもとづいて考察している。そしてその改善策として、農業協同組合を中心とする農村開発理想モデルが提案されている。この現地調査を通じ、グラミン銀行やマイクロクレジット機関はバングラディッシュの貧困緩和に大きな役割を果たしたが、まだ多くの地域でマイクロクレジットが効果的ではなかったことが明らかになった。たとえば、マイクロクレジットによる融資は毎週返済となっているが、都市に近くリキシャ漕ぎなどの現金収入が比較的得られやすいボイラ村では効果が上がったが、都市から離れたカシャハル村では毎週あるいは短期間へ返済ができる事業が少なく、貧困緩和にあまり貢献していないことが現地調査を通じて明らかになった。

本論文では、農村に積極的に営利的な事業を入れて農村経済を活性化するのではなく、農業自体の振興を図ることこそ農村のあるべき開発の姿であると主張されている。76.5%の国民が暮らしている農村において、農業を基本とした開発を行っていくためには、農業協同組合の復活が不可欠である。そしてそれは、以下の3つのチャンネルを通じて実現できると考えられる。

1. 行政の役割：バングラディッシュ農業開発公社（BRDB）は県庁には県農村開発センターを開設し、郡庁には郡農協連合会を置く。郡農協連合会にユニオン評議会も協力する。
2. グラミン銀行・NGO 機関の役割：グラミン銀行や NGO 機関はマイクロクレジットによって資金を提供して職業の機会を創出し、識字教育、家族計画や保健・衛生などによる生活改善を図る。そして販売経路の確保や農業・農村開発のために郡協力するという横のリンクを創出する。非農作物も郡農協連合会を通じて販売経路を確保する。
3. マタボール（長老）の役割：マタボール達は行政・農協連合会やグラミン銀行・NGO 機関に協力するという横のリンクを創出する。

本論文で提示されている農村開発理想モデルとは、現在存在する行政構造や農村開発構造という縦の繋がりをある程度活用しながら、グラミン銀行や NGO 機関との横の繋がりを強化して農業協同組合を復活させ、農業協同組合の従来のあるあり方を変え現実的な開発の仕組みを作るという提案である。これは、行政が色々な障害により機能的に動けない場合、グラミン銀行・NGO 機関の指導によって農業協同組合を運営し、農作物や非農産物の販路を確保しながら農村開発を進行させるという、暫定モデルである。

マイクロクレジットは、ボイラ村の貧困緩和に大きな役割を果たしたが、地理的な条件が違っているためにカシャハル村ではそれは効果的ではなかった。しかし、返済制度の多用化と農業協同組合の活用を推し進め、そして生産されたものの販売経路を確保することによって、そうした地域においても貧困緩和、そして農村開発の展望が開かれるということが現地調査および本論文の分析で明らかになった。

学位論文審査結果の要旨

この論文は、バングラディシュ・ボグラ県の 2 つの村のフィールド調査、および文献研究を通じて、バングラディシュの貧困の構造と、その対策におけるマイクロクレジットの役割を明らかにし、さらに貧困対策のモデルを提示するものである。

審査では、次の点が論文の優れている部分として評価された：

- (1) 経済環境や地理的条件が大きく異なり、マイクロクレジットの運用実績にも格差がある 2 つの村を対象に、長期間の聞き取り調査を行い、それぞれの村でどのようにマイクロクレジットが機能しているかを実証的に明らかにした。
- (2) 2 つの村のマイクロクレジット融資の相違を明らかにし、その相違がなぜ生まれるのかを構造的に明らかにした。
- (3) フィールドワークに基づき、村の経済構造や地理的位置によって、マイクロクレジット返済のサイクルを多様化させた貸し付けを行う必要があることを指摘した。
- (4) 農村開発の手段として、貨幣経済を浸透させる方法ではなく、農業そのものに基礎を置いたモデルを考案した。
- (5) 行政組織を通じず、グラミン銀行安堵の支援のもと農業協同組合を通じた農業開発モデルを考案した。

しかしながら、審査会では問題点も指摘された。

- (1) 2 つの村の分析だけでは、農村の多様性が十分普遍化できないので、本論文の主張をさらに信頼性のあるものにするには、今後さらに別の村の調査が必要である。
- (2) 実証分析は十分なレベルにあるが、この分析が開発経済学の理論にどう貢献するのかを明らかにできると、さらにこの研究の価値が高まる。

こうした点が議論になったものの、それは今後の研究の課題であり、審査委員全員一致で本論文は博士論文として十分な水準に達していると評価した。